

「まちづくりフォーラム・講演会」開催結果

- 日 時 平成 29 年 1 月 14 日（土） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
- 会 場 橋本市教育文化会館 4 階 第 6 展示室
- 参加者 86 名
- 内 容 講演会、グループワーク

【講演会】

- ◎テーマ 市民と行政の協働で元気なまちへ
～自治基本条例の魅力と課題～
- ◎講 師 堀内 秀雄氏（和歌山大学名誉教授）
- ◎内 容 ・自治基本条例の魅力 ・地方自治の三角形論
・「元気なまち」のつくり方 ・協働は「ために」から「ともに」
・課題は、市民と職員の Challenge&Change!

【グループワーク】

- ◎テーマ 「橋本市を協働で元気なまちにするため、何が必要か、何ができるか」
※テーマに対してグループワーク形式で意見交換会を行い、グループごとに発表していただきました。主な意見は以下のとおり。
 - ・若者を呼び込み、元気なまちを目指す。
若者を呼び込むには働く場所が必要。20 年前の豊かな財政基盤のある橋本市の復活を目指したい。
 - ・黒河道の有効利用。
学校教育の場で登ったり、ボランティアの方々の力を借りてイベントで黒河道を登るツアーや体験をしたり、ごみの清掃活動等も行ってうまく黒河道を利用していきたい。
 - ・地域ぐるみで地域防災を考える。
地震対応のための地域のコミュニティ作り。自助・共助、学校と協働して防災運動会を実施すると効果的なのでは。自主防災組織で地域が中心となって地域の関係性をつくる。
 - ・高齢者とこどもたちの互いの見守りあい。
こどもたちが地域のひとり暮らしの高齢者の方を訪問することで、高齢者の方からたくさんのことを学んだり、地域の良さを伝承したりすることができるのではないかな。
 - ・休耕田・廃耕田を家庭農園希望世帯への提供。
休耕地・廃耕地の有効利用、地域コミュニティの活性化により、農家をもっと元気にしたい。
 - ・市民食堂の提供
貧困世帯の食事情の改善。地域の公民館で週 2 回夕食提供してはどうか。

H29.1.14 まちづくりフォーラム ワークシートのまとめ

年齢	性別	公民館区	取り組みたいテーマ	ニーズ（なぜ、誰のために、どの程度まで）	手法・場（何をどのように、いつ、どこで）	資源（誰が、いくらで）
59	男	橋本	市民協働によって元気になるためには	駅前再開発（駅前から市役所にかけて寂しすぎる。日暮れと共に真っ暗。） 市民、旅行者（国内外）	店舗（特産品、みやげもの）誘致 駅近辺	市民・行政
58	男	不明	市民食堂の提供	食事情の改善（収入、時間、一人暮らしでの能力、母子・父子家庭） 独居老人、母子・父子家庭の子供 週2回（目標）	週2回（夕食） 地域の公民館	ボランティア （20人規模）
59	男	紀見	市民食堂の提供	貧困、生保の食事情の改善 独居老人、母子・父子家庭、若者の所得の伸び悩み 子供を含め生活困窮者 週2回の夕食	公民館（地域の）	有志（ボランティア）
53	男	紀見	市民食堂の提供	貧困世帯の食事情の改善 独居老人の増加 母子・父子家庭増 子育て世代の所得の伸び悩み 独居老人・子ども 低所得世帯 2回/週の夕食	2回/週の夕食 地域の公民館（20人）	有志、ボランティア
58	男	紀見	耕作放棄地の解消	放棄地が増加すれば地産地消も出来ず食糧生産が減少していく 担い手不足と農業業者の高齢化 当面1農地でも放棄地を解消する	食糧生産の大切さを子供たちに教えることと山間部放棄地が増えると特に保水能力が不足し災害が発生しやすくなることを教える 義務教育現場における授業中	教員、市行政職員、若年農業就業者 放棄地解消補助金として1aあたり人件費としては10万位必要か 国庫補助金10万
57	男	高野口	区・自治会の活動活性化	地域住民の身近な生活の場であるそれぞれの地域において一定の区域内での交流を図ることで、防災や助け合いの面でのきっかけづくりにつながる 交流少ない	区・自治会の行事への参加 週1回程度 行事の場所	家族全員の参加が望ましい。 区費、空き缶売払い収入、市補助金
46	男	高野口	子ども食堂を核とした地域の居場所作り	ただ単に食事をとれないこどもだけでなく、1人で晩ごはんを食べなければならないこども達に対し、地域が協力して食事+居場所を作る。地域の方々に協力いただくことで、地域のつながりもできる。ネグレクトだけでなく、共働きによる要因、また父子・母子家庭の増加。 食事できない子ども、1人で食べなければならない子ども、地域の方々。 可能なら平日夜。	食事をキーワードに、子どもと地域の大人がつながるように。 平日18:00~20:00ぐらい 公共交通に近い市の施設など	地域の大人（独居老人）の居場所にもなる。 施設については市の施設を、食材などは持ち寄りあるいは、寄付を募る。 行政からの補助金があれば継続的に運営できる。 スポンサー集めも必要。 問題点としてアレルギー対策やボランティア募集がある。
58	男	高野口	市民食堂の提供	貧困世帯の食事情の改善 独居老人の増加 母子・父子家庭増 子育て世代の所得の伸び悩み 独居老人・子ども 低所得世帯 2回/週の夕食	貧困の連鎖の断ち切り 週2回夕食 地域公民館	ボランティア 有志（20人）
66	男	高野口	観光客の増加を図る	全国的に橋本市が知られてたい。 観光客が増えることで、購買力UP（商品購入）などで町が元気になる。 観光資源少ない。 市民が元気になっていく（活気のある町に） TVなどで取り上げられるようにしていく。 （ドラマ、タレントなどがきて、市の各所をまわるような番組）	TV局などに地域発ドラマの誘致などの要請。 地元出身のタレントなどの観光大使などへの起用。 今年というよりいつでも。 TV局への要請（NHK）	朝ドラ誘致の部局（市役所）などに頼るしか今のところ考えつかない。 上記のとおり、市職員に頼る→出張経費。
51	女	山田	みんな笑顔で声かけ あいさつ（基本）、見守り	あいさつから始まるおつきあい 基本→つながる、呼びあう ご近所 みんな 常時	毎日、どこでも 会ったとき	
52	男	不明	地域ぐるみで地域防災を考える	地震に対する すべての地域の 自助、共助	自助の徹底！	

年齢	性別	公民館区	取り組みたいテーマ	ニーズ（なぜ、誰のために、どの程度まで）	手法・場（何をどのように、いつ、どこで）	資源（誰が、いくらで）
57	男	学文路	休廃耕地・畑を家庭農園希望世帯へ提供したい	休耕地の有効利用とコミュニティの活性化と、農家を元気に！ 農家の高齢化による休耕地の増加。 農家と家庭農園希望者や地域住民 休耕地のうち、農家の希望の範囲、市民を越えて市外の人も。	農家から休耕地の提供を受け、希望者に斡旋。 地域で同意形成ができた時。 区単位で。	区自治会で（希望する役員など） 農地の管理費、役員人件費 貸受人より月額で。
75	男	隅田	隅田地域を文化と歴史のまち（ゾーン）に	市全体の活性化は勿論だが地域にこだわったアピール上げを 万葉、八幡宮、利生護国寺、くらがり峠 隅田地域全体の活性化	秋祭り、お茶盛、万葉歌碑めぐり、飛び越え石 それぞれの行事の日程で、年間の中で日程を組む その所在地で	地域や団体のグループ協力
50	男	不明	町を訪れた人に橋本の魅力を伝えたい	はしもとに賑わいを発生させる。 観光者や地元住民に。 橋本のまちを歩ける程度に。	木材などを使い それぞれの地域ごとに 駅やそれぞれの史跡や神社、ほこらなど	市民、学校、事業者 特定寄付150000円 補助・助成50000円
不明	不明	不明	若者を呼び込む			
74	男	紀見	こども食堂	食事が満足にできない「こども」へ食事提供を行う。 貧困および母親の就労 こどもの6人のうち1人が食事ができていない できれば毎回希望だが、週1回とする	「こども食堂」のなかで 色々のお話や勉強を行う 平日の16時～19時 公民館など	「こども食堂」に参加していただく父母の皆様と。
75	男	不明				
34	男	紀見北	若者の行政への興味を持ってもらう	今回のようなまちづくりに関する集まりに 若者の出席率が悪い 若者が行政に関心を持っていない。 まちのために（若者ではない人々の意見に行政が左右される）	若者へのアプローチ（SNSでのコミュニティの活用） 若者（成人）は学生、社会人（市内、市外）様々 SNS上での電子フォーラムが望ましい。 とはいえ、アナログとデジタル両輪のコミュが必要。 年1で顔を合わせる必要。	橋本市内にすでにある若者のコミュニティ
72	男	隅田	社会で役に立つ 園・学校・子ども達 社会で育てていく将来の人づくり	社会に役に立つ子供達の育成 学校・園の中での教育も大切であるが、家庭教育が原因 社会で生きてゆくための大切なことを教える 家庭教育。子どもが将来社会で生きてゆくため 人の思いやり 痛み	個人の意見を尊重 園、学校教育の中と家庭 家庭、学校、地域、民生	親、先生、地域の大人
59	男	隅田	必要とする行政サービスの紹介	行政サービスが用意されているにもかかわらず、利用されていない方がいるかもしれない。 ご本人の知識がないため。 必要とする方 行政サービスの紹介と窓口への取次ぎ。	知っている範囲でニーズを聞き取り、必要な対応をする。 随時 特定なし	行政サービスの経験者 ボランティア
58	女	隅田	顔の見える成人式の開催（中学校区での開催）	若者と地域住民との距離を近くする方法のひとつになれば 地域でお祝いをする（地元感、連帯感） 成人式＝式典のみ＝意義が薄れているような？ 今は、その後の同窓会に目的が移っている。 成人される若者、それを支える地域住民、学校 企画＝成人式を迎える人も含めて 実施＝地元住民を中心として	成人式を地元中学校体育館で 成人式の日 地元の中学校体育館	地元の大人、中学生、高校生
55	男	高野口	地域ぐるみで地域防災を考える	確実に発生する地震対応、そのためのコミュニティづくり 区民すべての人 自助と共助	自助 まずは自分で行えることと考えて実行 補強、グッズ（非常食）を買う 共助 現実的に使えるマニュアル作り、研修会、学校と協働した防災運動会 各家庭 区の会館	自主防災組織 学校の防災訓練との連携

年齢	性別	公民館区	取り組みたいテーマ	ニーズ（なぜ、誰のために、どの程度まで）	手法・場（何をどのように、いつ、どこで）	資源（誰が、いくらで）
不明	不明	不明				
34	男	紀見北	地域一斉での防災訓練	当三石台には1800世帯、4800人の人が住んでいるが、一部の人が地域活動に参加しておらず、このまちの人にもっと地域に参加してほしい。 マンション世帯が多いほか、昼間は京阪神に働きに出ている家庭が多く、地域住民同士でコミュニケーションをとる機会が少ない。 防災倉庫に何が入っているかなど 実際に災害が起きた時の住民のために年1回程度	小学校 PTA だんじり 各自 区全体で	
54	男	不明	要配慮者避難態勢を現実的にしたい	橋本市は少子高齢化の影響で高齢者が多くなっている。あわせて障害者の方達もいる。これらの人達を安全に避難させる態勢が重要だ。車いす1人の人を避難させるのに5人は必要。困難だ。 要配慮者、ひいては市民全員の安全のため訓練ができるところまで	現状を踏まえて、1つずつ実行 業務が軌道にのってきても余裕ができたなら 橋本市	
53	女	不明	地域で孤立する老人等をなくす	災害発生時などの避難などの支援がスムーズに行える ご近所づきあいがうすれてきており、隣にどんな人が住んでいるのかさえ知らないこともある。 最低、顔や名前がわかりあいさつなどができる。		
50	女	隅田	高齢者のサロンと子ども達の学習支援、子ども食堂等のコラボ	高齢者と子ども達が一緒に交流をすることで、高齢者にも子どもにも 核家族化が進み、両親共働きや、ひとり親家庭の増加により、子どもの孤食や低学力	子ども達と昔遊びを一緒にしたり、食事を作って一緒に食べる学習支援 土曜日、日曜日、祝日、放課後 公民館	
32	男	紀見	世代間交流の活性化、地域のコミュニティ 一体感の高揚	中学校区域での成人式の後で、地域の大会 外へ出て行った大学生と地元高校生のマッチング 老人と子どもの交流機会→老人の生きがい、子どもの居場所		
32	男	高野口	子育て・学校の統廃合			
51	女	恋野	子どもの居場所づくり	家庭や学校、地域で居場所のない子ども達がほっこりできる 家族・地域の機能低下 子ども達とひいては市を担う子孫のため 地域で居場所のない子ども達が寄ってこれて食事ができる		
不明	女	不明	道路標識と道路制限	まちの景観が良くなる 今ある家の道路の上にならば32軒の家が建つから 地区のためにごみ収集を一言 月1回となるようですが、夏（7月・8月）の間は2日としてください。 夏期の2ヶ月の間は月2回としてほしい。	可燃ごみ 三石台 15、16区	
54	男	隅田	地場産業を各地区で立ち上げる	ここ数年間で団塊の年代が退職されたことで、高齢化が進んでいるが、まだ働ける力があるのに仕事がない。 医学が進み長寿になった 退職者のために、老人 地域で楽しくお金をもうけながら、長く続けられる	うもれた才能 経験者の知識 地区の資源等で考える 体制ができればすぐ 各地区（公民館単位）	地域（地区単位）住民
53	女	橋本	このまちの働くママを応援したい！	子どももつ女性が安心して働けるよう、保育の場の充実とともに、地域で子育てを支援していく。 小学校低学年までの子どもをもつ働く女性 保育園等の集団保育の及ばない時間	手助けが必要な時間に、子育て経験者がフォローする 集団保育が及ばない時間帯 空き家？	子育て経験のある有志

年齢	性別	公民館区	取り組みたいテーマ	ニーズ（なぜ、誰のために、どの程度まで）	手法・場（何をどのように、いつ、どこで）	資源（誰が、いくらで）
44	男	高野口	地域ぐるみで地域防災を考える	確実に発生するといわれる地震対応 家屋倒壊、土砂崩れ 地域の全ての人 自助と共助、自主防災組織、公助が来るまで	まず自分を守ることから考えて実行 非常袋の確保、避難通路の確認 運動会 我が家でできることマニュアル作成	みんな 自主防災の活用 消防団
55	男	橋本	地域ぐるみで地域防災を考える	地震に対応する すべての地域の人のために 自助、共助、公助		
79	男	学文路	学文路中学校跡地の活用	高齢地に伴う地域の活性化→人口増を図る 人口減、若者の減 清水地区住民のために	地域の総意を求める	
45	女	橋本	高齢者の人の日々の困りごととお助け隊	高齢者が増え、夫婦2人、独居される人も多いが、世の中の流れについていけているのか IT、行政の制度など世の中が便利になればなるほど複雑になっているが 近所の高齢の人 とりあえず同じ町内会で3人を支援	困っていることがあるかどうか聞き取りからはじめる 時間のあるときに 平日の夕方 その人の自宅で	私と友人で
59	男	紀見	登山で皆な健康に	自然豊かな橋本市、近くには二百名山 岩湧山、金剛山、黒河道などがある 市民参加のできるイベントとして All市民 毎月or4回/年	ハイキングクラブ、山の会 などが主導でイベント 清掃登山、寒中登山 日中 7:00-16:00 市内全域	山ガール ハイキングクラブ 保険代、飼料代 参加費500円 市ホームページ 広報活用
85	男	学文路	世界遺産黒河道の今後の取組	市として取組に力が入っていない 市長のリーダーシップに問題あり 市の発展のために ただし、観光とイコールにするな	組織の改正 早急に	地域の有志団体を作る
73	男	紀見				
55	男	橋本	市民が情報（行政・まちの出来事・まちの魅力・みんなと活動）を発信できる仕組み	まち（自分の住んでいる地域）のことを知らない市民にもっとこのまちをしることで、良くなる、好きになる 住んでいるだけで、何も気づかない住民になってしまっている。 住民 住民が市民になってもらうまで	地域のささいな出来事、風景、行政政策をいろいろなツールで 公民館単位で	
55	男	学文路	地域包括ケアシステムの構築	少子高齢化が進む中で、財政的にもマンパワー的にも行政だけでは住民への要望に答えることができない時代となっている。市民と行政が協働していつまでも住み慣れたところで生活できるような仕組みづくりが必要となっている。 高齢者だけでなく市民みんなのために。生活するのにあまり不自由でない程度まで。	行政が担当する部分は行政で、協働できる部分は日常生活圏域ごとの協議体を立ち上げる。 協議体の構築は平成29年度の早い時期から 市全体の協議体は一つ 日常生活圏域ごとの構築はできるところから	市全体の協議体は20数名程度 日常生活圏域ごとは各15~10名程度
47	男	不明	世界遺産を多くの人に知ってもらいたい	橋本市民でも知らない人が多い 周知不足 市民と観光客 市民周知度8割	学校で社会体験 市民ウォーキング 年2回 春と秋 現場 実地体験する	担当と学校関係者
73	男	紀見	食事の提供（市民食堂）	食事情の改善 独居老人、子どものため 週2回（夕食時）	地域公民館	有志
57	男	紀見	持続可能なコミュニティバスの運行	国庫補助収入の減少と利用者が少ない公共交通の後退 市の財政状況の悪化と国費の減少、空気を運んでいる 高齢者の福祉と、今後の高齢者の増に対応	市民の協力みんな育てる 公共交通 平成29年度	（区）市民のコミバスの活用
55	男	不明	地域ぐるみで地域の防災を考える	確実に発生する地震に対応と、そのための コミュニティ作り 区民すべて 自助・共助		

年齢	性別	公民館区	取り組みたいテーマ	ニーズ（なぜ、誰のために、どの程度まで）	手法・場（何をどのように、いつ、どこで）	資源（誰が、いくらで）
58	男	紀見北	防災で生き抜くためにやれること	地域で自分たちがやらねば 近所づきあいがいい 地域住民 有事にできる基本的なこと	どういうくくりで誰がリーダー 地域で	
41	男	不明	黒河道を多くの人に知ってもらいたい	周知することで観光資源 昨年、世界遺産に黒河道が登録されましたが、まだまだ市民や橋本市に訪れる方々は黒河道について知らない。まだまだ資源を生かしてきていない。もっと観光資源や地域の活性化を図る必要がある。 周知不足 知名度不足 PRにしていますが、橋本市民も含めて浸透していない 橋本市、市民、観光客のため 市民周知度8割	教育分野では実行委員会などによる体験イベント 1年1回 現場	文化スポーツ室と学校関係 地元の有志 歴史に詳しい人 実行委員会など ロードマップなど
76	女	不明		地域のことが何もわからない つながりがいい		
59	女	紀見北	橋本市のことを市民が知る	市のことを知ることが協働の第一歩だと思う		
58	男	隅田	黒河道の整備と管理について	世界遺産として登録されたが、町石道と比べても、今後整備と管理に力を入れなければ知名度は上がらない。 また、整備状況に問題がある。 橋本市民と観光客のため まず、整備について関係市町で協議する必要がある	黒河道全行程を全ての人が歩けるように整備する学校のイベントとして取り上げていく 最低でも、3年以内に整備が必要、途中でトイレも橋本市、九度山町、高野町で実施	市町職員、地元住民の力もかりて 道の整備 トイレの整備 広報の充実
58	男	学文路	黒河道のPRについて	周知 認知不足 市のPRのため、観光客のため 市民の認知度を高める。情報発信。	教育として イベント ハイキングルート 年2回 黒河道の現場	小中学校 文化スポーツ室 地元関係者 一応0円
59	男	紀見	高齢者と子ども達のふれあい	高齢者との会話や活動を通じてお互いが元気になる 少子高齢化で子どもも少なく接点が少ない 同じ地区内、特に同居に小さい子どもがいない家庭 1年程度続けることで、関係性が築けるように	むかしのあそび、昔話など (昔のまちの姿や様子など) 清掃作業 下校後、休日 学校、公民館	地元有志 (学校、公民館の協力) 教材(図書館) コピー お菓子程度 12000円/年